

# ハイシートから見える ドイツの狩猟事情

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ●伊佐治 彰祥

## ●ハイシートってなに？

ここで言うハイシートとは、直訳すると高い座席、猟場で獲物を待ち伏せするための狩猟台のことです。このハイシート、ドイツの狩猟シーンに必ず登場するといつてよく、ドイツでは郊外の耕地や森林のいたるところで見かけることができます。テニスの審判台のような小さなものから、高さが5mを越す檣に物置を載せたような大がかりなものまで、様々なハイシートが作られています。



ロッテンブルグ林業大学の演習林に設置されたハイシート。演習林には71基のハイシートが設置され、捕獲効率や使用状況等のデータがGISを使い管理集積されている。

ドイツでは、国土の約9割に猟区が設定されており、猟区の狩猟権を持つ者が猟場を占有して狩猟することができるようになっています。そのような状況があるため、猟区の狩猟権者は、自分たちの狩猟がしやすいように猟場の整備を行うこともでき、ハイシートの設置もその一つというわけです。

日本にも猟区は有りますが、制度が異なり、その数も全国で十数カ所とわずかで、猟場を占有するケースは少なく、また、通常の狩猟では、他人の土地に立ち入ることもあるため、ハイシートのような施設の設置や、狩猟目的の環境整備は一般的ではありません。

これを魚釣りに例えれば、ハイシートを使うドイツの狩猟は、施設が整った管理釣り場の釣り、日本の狩猟は、自然河川での釣りといった感じになるでしょう。

## ●ハイシートでの狩猟とは？

ところで、ハイシートを使った狩猟とはどのようなものなのでしょうか？アカデミーが交流するロッテンブルグ林業大学の先生に話を伺うと、「獲物が動き始める夜明け前に、足音を忍ばせこっそりとハイシートに入り、寒さに震えながら息をひそめて待機する。やがて夜が明け、獲物が寄せ餌に誘われ出てきたり、巻き狩りの場合は、勢子に追われ逃げてきたところを見逃さず射撃する。」のだそうです。

猟の前には、射撃の射界を妨げる樹木の除伐や剪定、寄せ餌の設置など事前の準備が欠かせず、時にはハイシートへ移動する時の足音を抑えるため通路の落葉を掻くこともあるのだとか。こうした仕事は、まだ狩猟免許を持っていない新入生の仕事になっているようです。

また、ロッテンブルグ林業大学演習林のように多数のハイシートが設置されている場合は、風向き、寄せ餌の食べられ方、過去の捕獲傾向等から獲物の動きを予想し、自分が入るハイシートを選ぶ必要があるとのこと、この判断の良し悪しが必要

猟果に大きく影響するようです。

そこまで準備して狩猟に臨むのなら、よほど獲物との出会いがあるのかと思いきや、さにあらず、演習林での猟では、5回の出猟で、せいぜいチャンスが1回ある程度とのこと。寒中、長時間待ったあげく、待ちぼうけとなったり、身じろぎの音ひとつで気付かれて逃げられることも少なくないそうです。狩猟の盛んなドイツだけに獲物の警戒心も強いでしょう。なかなかの忍耐力を必要とする猟法のようなのです。

## ●ハイシートを作ってみた

昨年十一月、日独林業シンポジウムに合わせ、学生達とハイシートを作ってみました。  
ここで参考にしたのは、ドイツで市販されているハイシート作りのマニュアル本です。この本では、ハイシートのタイプごとに、材料寸法や組み立て方、木材腐朽対策など実に事細かに解説されています。ハイシートのためだけにこれだけのマニュアル本があることに驚きますが、過去に、誤った作り方や管理不足が原因で、倒壊事故が多発し、こうしたマニュアル本が作られるようになったとのこと。

今回使った材料は、演習林産ヒノキ・スギから製材した角・板材とコーチボルト、ネジ釘、ポリカ波板など。工期は延べ3日、人員は、建て起この時以外は、2人いれば十分です。作業は特に問題なく進み、出来栄も満足できるものになりました。床面の高さはわずか2m程ですが、ハイシートからの眺めは、なかなかのものです。

## ●ハイシートは、日本で使えるか？

ハイシートは、ドイツの狩猟環境を背景に発達したものだけに、日本の一般的な狩猟シーンにそのまま当てはめるのは難しいかもしれません。

しかし、植林地のシカ害に悩まされている事業体さんによる、自力の被害対策やハンターを奥山の事業地に招き入れるための環境整備等にも活用できるような気がします。ひょっとしたら日本の猟区にも設置されるかもしれません。狩猟以外では、野生動物の観察台や遊泳場の監視台として、また、制作自体を環境教育プログラムにするなど、「ドイツのハイシート」を冠を付けることで、思わぬ使い道も生まれそうです。ちなみにアカデミーで作ったハイシートは、森のようちえんの遊具となっています。

このハイシート、気になる方は、是非アカデミーにお越しの際、実物をご覧になってください。



組み立てが終わったところで、設置場所に移動し、建て起こします。この時ばかりは、人手が必要。屋根や梯子は、後からボルトで取り付けます。



ウッドデッキを型紙に使い、採材、組み立てをしていきます。工具は、電動ドリル、丸鋸、一部にチェーンソーを使用しました。後ろに見えるのは、1/3スケールの模型。